

子どもたちは砂場遊びや積み木、ブロック、粘土遊びなど、自分の思いのまま奔放に作ったり壊したり、「やりたい」気持ちでくり返し遊ぶのが大好きです。

本来遊びは自由な行動で、誰からも強要されず制限もなく、やる、やらない、ちょっと休む、全てが自由なもの。

構成遊びは、組み立てたり何かを作ったりそろえたり壊したりする遊びで、子どもが自由に発想していく遊びです。

絵本「つみきでとんとん」。つみきでとんとん、かさねてとん、もつつみきをもって一。並べる・重ねる・くっつける、積み木の無限の遊び方が豊かに描かれています。

積み木は、幼稚園の創始者、幼児教育の祖であるフリードリヒ・フレーベルが1838年に考案した一連の教材(恩物)がルーツとされています。

積み木を積み上げている時、何かを作っている時、思うようにできた時、崩れた時、それぞれの感情や表情、体の動きに、見ている大人も一緒にワクワクドキドキ。

「すなばばば」。すなばで友だちとトンネルほり。かいつうした。『すなばんぎー!』。情景や気持ちの擬態語もユニークで、何だか気持ちが大らかに愉快になります。この砂遊びも恩物の20種類に含まれています。

砂は、遊び方が無限に広がる「究極に自由な遊び道具」だと言われています。砂の触感、加える水加減での変化。その変化を予測して確認し、そして次なる挑戦。想像したり創造したり科学的に発想したり。砂を介してさまざまな道具を操作できるようにもなります。砂の上の移動にもバランス感覚や筋力が必要です。そして砂には、子どもの体や動きをありのままに受け止めてくれる安心感もあり、活動的な遊びだけでなく、静かな遊びの居場所にもなります。

遊びは自発的なもので、自分の「やりたい」が見つけれ、「やりたい」ができること。

私たち大人は、遊び場の整備とともに、子どもの「やってみたい」ができる環境を整えていきたいものです。

「つみきでとんとん」 竹下文子 文 鈴木まもる 絵 金の星社

「すなばばば」 鈴木のりたけ 作・絵 PHP 研究所